

KN グローカルリサーチレポート 2017年6月 No.14



遠州地域では田植えも終わり、間もなく梅雨。気象庁によると、東海地方の平年の梅雨入りは6月8日頃です。

これからの梅雨から初夏に向けて、草花が生育します。既に、春先に植えたバジルやミント、ローズマリーなどは料理に添えられるようになりました。

子どもを東京の大学へ進学させると…『私立大学新入生の家計負担調査』より



先月のニュースレターで、浜松市と静岡市の人口減少について「18歳から22歳の若者が、進学や就職で首都圏に転出していることが影響している」とお伝えした。

筆者も都会に憧れ、高校卒業とともに浜松を離れ、東京の予備校に通い（当時、浜松には予備校が無かった）一浪して私大に進学したが、親にはかなりの負担をかけたと思う。二十歳前に一人暮らしをして、社会のルールを学び、また、親のありがたさを実感した。

我が子の進学が数年後に迫る。さてどうしようか…。

● 入学の年にかかる費用(自宅外通学者)

| | |
|------------|-----------|
| 受験費用 | 242,200 |
| 住居費 | 572,300 |
| 私大初年度納付金 | 1,311,644 |
| 仕送り(4~12月) | 801,300 |
| 合計 | 2,927,444 |

【家計への大きな負担】

東京私大教連の『私立大学新入生の家計負担調査』によると、子どもが親元を離れ、首都圏の私立大学に入学した年にかかる費用は293万円となっており、世帯の税込平均年収（本調査では899万円）の1/3を占めている。このため、自宅外通学の21.4%が入学費用を「借入れ」をしており、借入額は211.9万円で、年々増額傾向にある。9割以上の家庭が入学時の費用負担を「重い」と感じている。

【仕送り額は85,700円と過去最低】

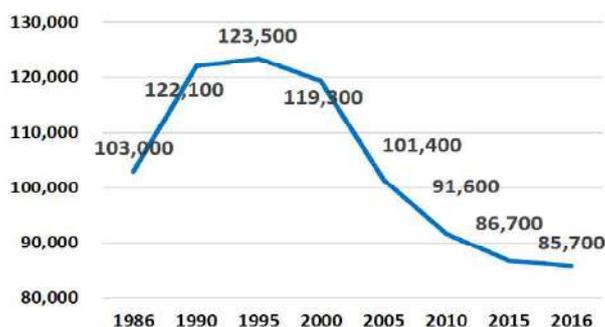
出費が落ち着く6月以降の月平均の「仕送り」額は85,700円で16年連続して減少し、過去最低となった。

一方、毎月の「家賃」は62,000円となっており、「仕送り」に占める「家賃」の割合は70.6%となっている（1986年は33.7%、2000年は50.0%、）。

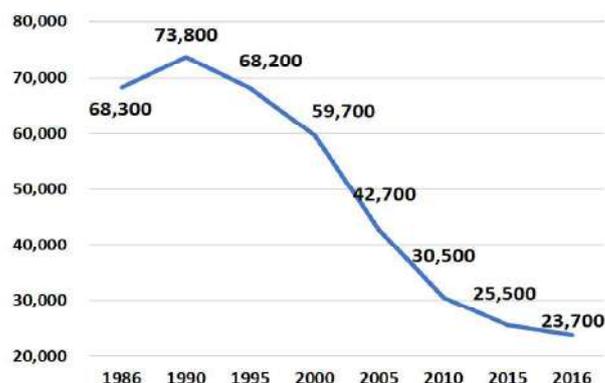
「仕送り」から「家賃」を引いた「生活費」は23,700円となり、一日の生活費は790円（23,700円÷30日）である。

当然、これでは生活できないわけで、奨学金を借りたり、アルバイトで生活を支えることになる。

● 6月以降の仕送り額(月平均)の推移



● 6月以降の生活費(仕送り-家賃)の推移



***** ～～ バンコクの風 ～～*****

「タイにいて日本が恋しくありませんか？」

定番の質問の答えには、「美味しい鮭を、安く食べたいとき」と答えます。

鮭の品質も十分高いのですが、気軽なお値段ではありません。それでも食べようと思えば食べれるお鮭よりも、「四季を感じたい」と言うのが燻り続けている想いでしょうか。

タイには、hot, hotter, hottestの3つの季節があると言います。それしか、ありません。桜を見たり、赤や黄色に染まる山々に息をのんだり、寒い日にみんなで鍋を囲ったりすることに、恋い焦がれます。

デパートに掲げられた鯉のぼりに、ほっこりした今日この頃でした。(バンコク・影山)



【二人に一人が奨学金を利用 望まれる「無利子奨学金」の拡大】

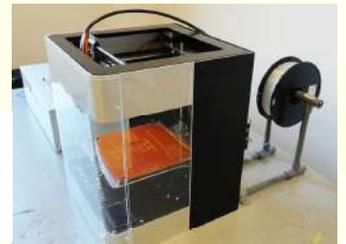
『私立大学新入生の家計負担調査』では、日本学生支援機構などの奨学金を「希望する」は66%で、その希望者のうち奨学金を「申請した」は70.1%となっている。実際、日本学生支援機構の「平成26年度学生生活調査」によると、私立大学生の51.4%は、日本学生支援機構や大学等の奨学金を受給している。

国では、2018年度から「給付型奨学金」(月2～4万円)を創設し、社会的養護を必要とする学生に給付を始める(今年度から一部先行実施)。また、低所得者を対象とした「無利子奨学金」では、成績要件を実質的に撤廃した。今後も、「無利子奨学金」の拡大が望まれる。

3Dプリンター @鴨江アートセンター 浜松市中区鴨江町1番地 TEL:053-458-5360

鴨江アートセンターの2階ロビーに、3Dプリンターがあり、誰でも低料金で利用できます。企業の試作品づくりや、個人の趣味の工作などで、利用してみませんか(要予約)。

初めての方は、講習会に参加してみたいはいかがですか？



・6/22(木)ブローチを作ってみる ・7/22(土)ミニカーを作ってみる

【鴨江アートセンター】

浜松市の施設です。浜松市民の文化芸術活動を具体的に支援したり、浜松地域に住むアーティストやクリエイターの創造的な表現活動を公開し、市民や地域と交流させる活動を展開しています。気軽に尋ねてください。2階では、アーティストの作品制作の現場が見学できます。



執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士

(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長

(一財)日本総合研究所 客員研究員

浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org